

3. 持続可能なインフラメンテンスに向けて

取組方針（案）

予防保全型管理の深化

1 劣化予測の検証・精度向上

中長期管理計画に示す維持補修の対策時期及び対策規模を正確なものとするため、現行計画の劣化予測の妥当性を検証し、精度向上を図る。

2 再劣化の抑制

目標とする管理水準を維持し、施設の長寿命化を図るため、再劣化の防止策を検討する。

3 Ⅲ判定の早期措置

本格的な予防保全へ移行し施設の長寿命化を図るため、早期に健全性Ⅲを対策する。

取組方針（案）

予防保全型管理の深化

4

新技術・新材料の活用

維持補修費のコスト低減や部材の耐久性向上を図るため、損傷状況に応じた新技術・新材料の導入を検討する。

5

対策優先度の設定

予防保全型管理を効率的・効果的に推進するため、施設の機能（既存不適格など）や耐震性などを新たに重要度として考慮した上で「施設毎の対策時期の設定」や「更新」を対策に含めた最適な維持管理手法を検討する。

取組方針（案）

データ取得・管理・利活用の推進

6 データ取得方法の検討

点検、調査、工事、モニタリングなどの各場面で効果的な維持管理に取り組むため、新たな技術や知見を踏まえたデータの取得方法について検討する。

7 データ管理方法の検討

データの保存や抽出を容易に行うため、新たな技術や知見を踏まえたデータの管理方法について検討する。

8 データ利活用の検討

維持管理の精度向上や事務作業の効率化のため、新たな技術や知見を踏まえたデータの利活用方法について検討する。